リスクアセスメントの留意事項

危険要因の洗い出し

● 目のつけどころ

危険要因の洗い出しを行う場合は、次のことに留意しましょう。

・作業システム全体をみて、対象作業の作業の流れから、「どうも危ないな」というものから洗い出しましょう。
・対象作業をわかりやすい単位で区分し、「ちょっとおかしい！」と感じる「危険の芽」まで踏み込んで洗い出しましょう。
・「現場に足を踏み入れ、自分の目で確かめる」の精神で現場をイメージして、「危ないことはないか」という目で、危険要因の洗い出しをしましょう。
・機械は故障する、人はミスをする、ということを前提に作業現場をよく観察してみましょう。
・細かいことにとらわれず、作業システム全体の中で災害発生率の高い危険要因に重点をおいて洗い出しましょう。
・いろいろな立場の人から意見を聞くようにしましょう。
・危険要因の洗い出しはつぎのリスク見積につなげるため、「～するとき、～したので、～になる」という形で表しましょう。

● スイングヤーダによる集材作業の例

① スイングヤーダの据え付け方法が不適切で、転倒する恐れはないか。
② 集材方向が不適切で、集材中スイングヤーダが転倒する恐れはないか。
③ 集材ウインチで引き寄せ作業中に、材や浮き石などがとんでくる恐れはないか。
④ 合図の前に引き寄せ作業を行い、荷かけ者が材に激突される恐れはないか。
⑤ 材を必要以上に持ち上げ、スイングヤーダが転倒する恐れはないか。
⑥ 引っかかった材を無理矢理引き寄せ、材に激突される恐れはないか。
⑦ 集材ウインチを急激に発進させ、ワイヤロープが切断、激突する恐れはないか。
⑧ スイングヤーダ周辺で作業している者が、材や作業機に激突される恐れはないか。
⑨ 材が接地する前に荷はずし作業を行い、ワイヤロープに激突される恐れはないか。
⑩ 荷はずしをした材に激突される恐れはないか。
⑪ 滑ったり、転んだりする箇所はないか。
⑫ 作業にあった機械・器具・保護具を使用しているか。
⑬ 作業者の年齢、経験年数からみた人の配置は適正か。
⑭ 現在の作業仕組みで危ないところはないか。

リスク見積りと評価

● 目のつけどころ

洗い出された危険要因に対して、リスクの見積り・評価を行いましょう。

・リスクの見積り・評価は複数の人で実施しましょう。
・細かく見積もらないで大まかに見積りましょう。
・リスクの見積りにあたっては、具体的な災害の起こる可能性とケガの程度を想定してみましょう。
・リスク見積りは、作業内容をよく考えて、十分話し合い、グループの総意として決めましょう。
・そのリスクの大きさを明らかにしましょう。

リスク低減対策

● 目のつけどころ

リスク低減対策の検討を行う場合、リスクの高いものから優先的に検討を行いましょう。

・リスク対応は、どのようにしてリスクを小さくするかを考えましょう。
・リスク対応は、リスクゼロを目指すのではなく、リスクを許容できる水準より低いところまで引き下げましょう。
・作業システム全体を要素のつながりとして検討し、リスク低減対策の方向を見誤らないようにしましょう。
・物事を裏返しにした対策をたてない（例えば「材が宙吊りになる」→対策「材を宙吊りにしない」）で具体的な対応策を考えましょう。
・リスク低減対策の検討は、次の順序で検討しましょう。
①先ず危険作業をなくしたり、見直したりしてリスクを小さくすることを検討しましょう。
②次に、何か機械や設備などで対策がとれないか検討しましょう。
③3番目に、防護ズボンなど安全保護具の使用を検討しましょう。
④4番目に、教育訓練、作業管理等の対策を検討しましょう。
・コストの多少でなく妥当なリスク対応を検討しましょう。
・対策後にリスクの見積り・評価を再度行い、許容可能かどうかを検討しましょう。

改善にあたり考慮すべき事項

● 目のつけどころ

・対策後のリスクレベルが確保されるよう、具体的な方法を検討しましょう。
・具体的な実施にあたっては、ないものねだりをせず、一歩一歩前進していくように優先順位をつけて実施しましょう。
・アセスメントの実施結果を作業者全員に周知し、事業者と作業者が一緒になって取り組みましょう。